

2023 令和 5 年 7 月 12 日

令和 5 年度第 1 回運営協議会

令和 4 年度 八ヶ岳美術館事業報告

(1) 運営方針

原村出身の彫刻家清水多嘉示の生涯にわたる作品を中心に、同村出身の書家津金雀仙の作品、および村内遺跡から出土した縄文時代の考古学資料を展示することにより、村民はもとより原村を訪れる人々に社会教育の場を提供します。また地域の文化施設として、年間を通して各種の企画展を開催し、常設展と併せて来館者に様々な美術作品に親しむ機会を提供し、芸術および考古学の情報発信をおこないます。さらに建築作品としても重要な村野藤吾設計の美術館建物の維持管理に努め、その価値を広く紹介し、美術館周辺に広く自生する多くの植物を保護し、訪れる人々が豊かな自然環境の中で芸術作品に親しめるよう努力します。

(2) 令和 4 年度 (2022) 八ヶ岳美術館展覧会年間予定 (P7)

(3) 令和 4 年度入館者数及び売店販売実績 (P8 月別年間集計表)

【企画展】

春の「考古学者両角守一と清水多嘉示をとりまく諏訪の人々」、夏の「寺坂公雄個展—山麓、風と光の交響—」、秋の「第 9 回全国公募展あなたが選ぶ信州の裂織展」、冬の「日達れんげ きりえ展」の四企画展を展開しました。

常設展の清水多嘉示・縄文研究に大きく貢献した地元ゆかりの研究者、日展元理事長で隣県北杜市大泉にアトリエを持つメジャーな画家、隔年開催の全国公募展、全国に広くファンを持つ原村在住の切り絵作家と、それぞれの分野での知名度の高さもあって注目度が高く、コロナ前の水準を超える入館者実績となりました。

平成 4 年度の企画展

「考古学者両角守一と清水多嘉示をとりまく諏訪の人々」4 月 1 日 (金) ~6 月 26 日 (日)

「寺坂公雄個展—山麓、風と光の交響—」7 月 2 日 (土) ~9 月 11 日 (日)

「全国公募展 第 9 回あなたが選ぶ信州の裂織展」9 月 17 日 (土) ~12 月 4 日 (日)

「日達れんげ きりえ展—八ヶ岳山麓の森から」12 月 10 日 (土) ~3 月 21 日 (火・祝)

・エントランスギャラリー「片田好美 原画展」9 月 23 日 (金・祝) ~3 月 21 日 (火・祝)

【入館者数】

- ・前年度に続き新型コロナ禍の1年でしたが休館することもなく、原村の支援策も効果を上げて、有料入館者は7,335人で昨対132%（1,760人増）、コロナ前10年間の平均値と比べても757人多く、コロナ前をしのぐ復調となりました。
- ・有料入館者のうち村招待券は、大人1,189人、子ども75人の計1,264人。有料入館者の17.2%を占めています。
- ・総入館者は8,505人で昨対127%（1,788人増）と8,000人の大台を超え、コロナ前10年間平均を233人増えました。

【売店収入】

入館者増につれて作家グッズも好評で、売店売上は1,629,996円と昨対127%（344,480円増）でした。

（4）総収入

総入館料は3,572,680円で昨対132%（861,070円増）

売店売上、協賛金等を含めた年間総収入は5,774,177円で昨対132%（1,401,173円増）と堅調でした。

（5）令和4年度実施事業

- ・条例と運営方針に基づき、常設展示のほか4企画と42回の館内外のイベントを実施しました。

（P9 令和4年度八ヶ岳美術館企画展・イベント参加者数）

（P10 企画展・原小図工クラブ 写真）

（6）博学・地域連携

武蔵野美術大学との共同研究と並行して、2010年から毎年実施しているブロンズクリーニングは12年歴史を刻みました。ブロンズクリーニング隊には地元原村の親子をはじめ諏訪圏、横浜、埼玉などからも参加希望があり、原村の小・中学校をはじめ諏訪圏域複数の小学校・高校にある清水多嘉示作品や諏訪湖畔にたつ清水作品、諏訪大社境内の獅子像などのブロンズクリーニングを地域住民と一緒に実施し、地域や学校との連携を深めてまいりました。コロナ禍の3年間は密集を避けて八ヶ岳美術館の屋外彫刻クリーニングに限定して取り組みました。

また、原小・中学校、地域との博学連携事業事例は以下の通りです。

【博学地域連携ワークショップイベント】

- 5月27日 原中学校1年生キャリア教育 生徒67名プラス教員5名
館内見学、対話型鑑賞。
- 5～10月 図工クラブ
- 8月複数日 夏休みワークショップ初開催（計8日）
各職員がそれぞれ担当し、講話、スケッチ、ワイヤーアート、石鹼、粘土土器制作。
- 9月3日 ジュニア教室 6名（2名欠席）
前は20名のため激減。コインが転がる森の貯金箱制作
その後美術館見学に来てくれた親子もいました。
- 10月15日 阿久イベント 花紙ステンドグラスワークショップ体験
大人18人、子供12人。昨年（16人）をはるかに上回り
30人が体験。大人の参加のほうが多く驚きました。土器モチーフの、紙製ステンドグラス制作。
売店の売り上げも昨年より大幅に増え、阿久イベントの周知につながりました。
- 11月12日、13日 原村文化祭 コロナで3年ぶりの開催。
2日間で50人参加。立体プラバン100円サイズ34人、
50円サイズ7人、無料のペットボトル工作9人。
多くの親子や、大人も参加し楽しんだ。過去のイベントに参加のため、顔見知りになった子どももいました。
- 11月下旬～12月 クリスマスフェアを開催。今回の林ひろ子氏の飾りつけも好評。ワークショップは複数日、粘土のオーナメント作り（有料）と、松ぼっくりのミニツリー作り（無料）を開催。計16人の親子などが参加。
そのほか、クリーニング隊員の希望で、10月に屋外の山野草を案内してほしいと依頼があり、外をじっくり案内。2名参加で喜ばれました。八ヶ岳美術館散策路の野草マップを作成中。

【原小学校図工クラブ地域講師派遣】

2018年よりクラブ地域講師の依頼があり、以降講師を務めています。原小学校高学年（4～6年）の中で、図工クラブを希望した生徒にむけて開催。会場は原小学校図工室。年間6回で、（準備から片付けまで）各回1時間。

美術に興味を持ってもらえるよう、簡単な美術工作を行い、美術館の周知にもつながるよう、清水多嘉示や企画展について紹介もしています。

令和4年度内容

- 第1回 はがせるメモ帳づくり
 - 第2回 レインボーペーパーで時計作り 前編
 - 第3回 レインボーペーパーで時計作り 後編
 - 第4回 丸シールでデザイン、木のキーホルダー
 - 第5回 縄文人気分で模様付け、粘土の温度計
- ※コロナにより、1回開催数が減る

参加者数

生徒32人
先生2人

令和4年度は、図工クラブ担当教師である倉光先生（英語担当）より、「AETの先生が日本語が不得意のため、生徒と交流したく、図工クラブに参加したい」とのことで、担当以外の先生も参加された。

特記事項

第5回は、土器風の粘土でオブジェを作りましたが、原村の土器についても紹介する機会となりました。

教育委員会文化財係 松森氏をゲストに招き、フウちゃんのリプリカや本物の土器を見ながらお話を聞いたり、レプリカに触れるなど交流しました。

その他

クラブは5月～10月の開催であったが、11月の原村文化祭や、12月の美術館クリスマスワークショップに生徒が保護者と参加したり、企画展を見に来るなど、交流がつながっています。6年生は、次の中学1年の春に、八ヶ岳美術館見学があるため、そこでの再会を楽しみにしています。

(7) 新型コロナ対策

- ・感染症対策を継続して徹底し、「一人のコロナ患者もクラスターも出さない」をモットーに独自の「非接触マニュアル」を継続実施しました。
- ・八ヶ岳美術館は首都圏からの来館者や別荘滞在者が多い地域ですが、幸いにして一人の陽性者やクラスターも出さず開館業務を行うことが出来ました。
- ・令和5年1月には国内感染者が累計3千万人を超えとなり社会全体の免疫を獲得、インフルエンザ並みの「5類」に引き下げる方向となり、令和2年1月の国内初感染以来3年ぶり緩和されました。しかし、新型コロナがなくなったわけではないので、八ヶ岳美術館はアルコール消毒・検温器は従来のまま設置を継続(来館者の使用は自由意思)、美術館スタッフはマスク着用、換気励行を続けています。

(8) 施設整備・営繕管理

- ・老朽化した建物の維持を図るための調査を経て、令和6年度に実施設計、7年度に屋根と外壁等の工事を予定しています。工事期間中は建築ツアーなどのイベントを企画したいと考えています。

令和4年度ハケ岳美術館展覧会年間予定

月	コレクション展		日数	企画展示室A	企画展示室B
	4			両角守一と清水多嘉示をとりま〜諏訪の人々展	
5			87日間	4/1(金)〜6/26(日)	
6					
7				寺坂公雄 絵画展	
8			72日間	7/2(土)〜9/11(日)	
9				ハケ岳美術館全国公募展	
10	清水多嘉示 彫刻・絵画	津金雀仙 書		第9回 あなたが選ぶ信州の裂織展	
11			79日間	9/17(土)〜12/4(日)	
12				日達れんげ 切り絵展 ハケ岳山麓の森から	
1				12/10(土)〜3/21(火・祝)	
2			102日間		
3					

開館日：334日

休館日：展示替え6/27〜7/1、9/12〜9/16、12/5〜12/9、3/22〜3/31

年末年始（12/29〜1/3）

令和4年度 月別年間集計表

区別 / 月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	毎期対前年比	当月対前年比	
開館日数		30	31	26	30	31	25	31	30	23	28	28	21	334			
有	大	一般	165	330	219	440	825	468	526	658	170	131	136	285	4,353	143%	143%
		団割	46	70	38	320	195	125	168	112	27	19	26	211	1,357	193%	193%
	人	村招待券			23	168	401	173	101	107	51	165			1,189		
		計	211	400	280	928	1,421	766	795	877	248	315	162	496	6,899	136%	136%
	小	一般	7	17	11	13	54	15	19	22	5	3	2	9	177	73%	73%
		団割	0	1	0	104	3	0	0	2	0	0	0		110	550%	550%
		村招待券			0	7	37	9	1	2	7	12			75		
		計	7	18	11	124	94	24	20	26	12	15	2	9	362	105%	105%
	料	人	人事及び特殊料金入館	19	4	14	6	0	2	0	0	1	0		74		
			合計	237	422	305	1,058	1,543	790	817	903	260	331	164	505	7,335	132%
有料入館者数 対前年比		138%	153%	162%	152%	93%	258%	127%	100%	110%	676%	178%	139%	132%	132%	143%	
館外活動参加者数		0	34	68	19	0	38	62	50	0	0	0		271		143%	
減免入館者数		42	113	56	133	108	84	118	69	69	37	20	50	899	94%	94%	
総入館者数		279	569	429	1,210	1,651	912	997	1,022	329	368	184	555	8,505	127%	127%	
総入館者数 対前年比		143%	152%	168%	142%	91%	233%	123%	89%	105%	575%	166%	134%	127%	134%	134%	
一般入館料計		107,060	204,950	143,650	483,080	738,310	390,410	402,050	448,070	128,130	163,450	81,820	244,660	3,535,640	134%	134%	
人事及び特殊料金入館料		9,690	2,040	6,940	3,060	14,280	0	1,020	0	0	10	0		37,040			
総入館料計		116,750	206,990	150,590	486,140	752,590	390,410	403,070	448,070	128,130	163,460	81,820	244,660	3,572,680	132%	132%	
総入館料計 対前年比		136%	152%	161%	144%	96%	260%	127%	101%	113%	675%	180%	135%	132%	127%	127%	
売店売上 対前年比		60,970	75,328	75,745	189,855	205,152	139,190	219,030	208,010	84,558	93,930	64,782	213,446	1,629,996	127%	127%	
協賛金			199%	190%	66%	63%	120%	252%	186%	121%	443%	282%	155%	127%			
振込み他入金		9,353		80,000	1,760		3,000	145,647		2,907	11,455	30,229	6,650	360,000			
応援券											500			500			
総収入 対前年比		187,073	282,318	306,335	677,755	957,742	682,600	767,747	656,080	345,595	269,345	176,831	464,756	5,774,177	132%	132%	

令和4年度 ハケ岳美術館企画展・イベント参加者数

2023.6.22

展覧会名	会期	関連イベント	開催日	参加者数	有料入館者数	入館者数		
考古学者両角守一と清水多嘉示をとりまく諏訪の人々	4月1日～6月26日	対談「近代彫刻の系譜：ロダン－ブールデル－清水多嘉示」黒川弘毅(武蔵野美術大学彫刻学)	4月29日(金・祝)	14	964	1,277		
		ブロンズクリーニング隊番外編「室内彫刻のメンテナンス講座」黒川弘毅(武蔵野美術大学)／聞き手：小泉悦夫(当館館長)	4月30日(土)	8				
		ギャラリートーク	4月9日(土) 5月15日(日)	2				
		ワークショップ 考古学者のスケッチ鑑賞と土器スケッチ会	4月17日(日) 5月22日(日)	7				
		ワークショップ 粘土でつくるゆらゆら縄文モビール	6月5日(日)	1				
寺坂公雄個展 —山麓、風と光の交響—	7月2日～9月11日	オープニング記念ギャラリートーク	7月2日(土)	26	2,976	3,283		
ハケ岳美術館全国公募展 第9回あなたが選ぶ信州の裂織展	9月17日～12月4日	機織り体験	9月23日(金・祝) 10月8日(土) 11月6日(日)	9	2,248	2,659		
		布草履づくり	10月22日(土) 11月3日(木・祝)	4				
		クリスマスジャズ生演奏	12月4日(日)	0(中止)				
日連れんげ 切り絵展 ～ハケ岳山麓の森から～	12月10日～3月21日	ワークショップ①うさぎのカードをつくろう	12月17日(土)	6	1,147	1,286		
		ワークショップ②きりえプリントでアイテムづくり	2月23日(木・祝) 3月5日(日)	11				
		ワークショップ③お花のカードをつくろう	3月18日(土)	6				
その他イベント		はらむら塾講演「諏訪の考古学者の系譜～両角守一を中心に」三上徹也(大昔調査会副理事長)	6月16日(木)	20				
		はらむら塾講演「ハケ岳を描く」ギャラリートーク 寺坂公雄(日展元理事長)	8月3日(水)	61				
		はらむら塾講演「繊維と布の物語から今と昔、そして未来」高寺政行(信州大学教授)	10月6日(木)	40				
		ハケ岳でできる体験ガイド「森の工作室」	7月17日(日)	1				
		ブロンズクリーニング清水生誕記念	7月30日(土)	19				
		夏休みワークショップ祭 ①館長さんのおもしろ講話 ②ワイヤーアートのどうぶつづくり ③カラフル★アイスバー石鹸 ④手のひら土器づくり	①8月9日(火) ②8月7日(日) 8月14日(日) ③8月11日(木・祝) 8月17日(水) ④8月8日(月) 8月20日(土)	15				
		ジュニア教室「森のこうさくしつ」	9月3日(土)	6				
		阿久イベント縄文の深呼吸 ワークショップ	10月15日(土)	30				
		エントランスギャラリー 片田好美 原画展	9月23日(金・祝) ～3月21日(火・祝)	—				
		原小図エクラブ ワークショップ	5月27日(金):34名 6月2日(木):34名 6月30日(木):34名 9月22日(木):32名 10月20日(木):32名	166				
		村民文化祭ワークショップ	11月13日(日)	50				
		クリスマスフェア ワークショップ「松ぼっくりのミニツリーづくり」 「粘土のオーナメント」	12月3日(土) 12月11日(日)	7				
		合計(名)		509			7,335	8,505



原村の白樺を描いた作品も

↑ 日展元理事長寺坂公雄展



美術館職員による時計作り（原小）



文化財職員を招いて土器のお話し（原小図工クラブ）

令和5年度ハケ岳美術館展覧会年間予定

月	コレクション展		日数	企画展示室A	企画展示室B
4	清水多嘉示 彫刻・絵画		72日間	岩波其残と画友展	
5					
6					
7	津金雀仙 書		79日間	酒井慶二郎の絵画 花は無言で語る展 6/17(土)～9/3(日)	
8					
9	考古資料		116日間	縄文前期の巨大祭祀場 阿久展 9/9(土)～1/8(月)	
10					
11					
12					
1			72日間	常設展のみ	
2					
3					

開館日：339日

休館日：展示替え6/12～6/16(5日)、9/4～9/8(5日)、1/9～1/12(4日)、3/25～3/31(7日)

年末年始 12/29～1/3(6日)

令和5年度第1四半期（4月～6月）実績報告 八ヶ岳美術館

第1四半期は企画展「岩波其残と画友～激動の幕末・明治時代を生きた諏訪の画家たち～」(4月1日～6月11日)、「酒井慶二郎～花は無言で語ります～」(6月17日～)のいずれも地元作家に焦点をあてた企画で大きな反響を呼びました。

有料入館者数は1,312人で、昨年対比136%(348人増)。総入館者は1,660人で、昨対130%(383人増)。総入館料は637,680円で、昨対134%(163,350円増)といずれも好調でした。

売店収入は504,927円で、昨対238%(292,884円増)と倍増。岩波其残展関係の書籍が期間中に新発売されたこともあり、セット販売の威力を発揮しました。

企業協賛も含めた総収入は1,228,355円で、昨対158%(452,629円増)と幸先の良い滑り出しでした。

諏訪市出身の俳画を中心としたマルチアーティスト岩波其残展では、企画展準備段階で楽焼香炉の獅子像が江音寺(諏訪市豊田)にあることを突き止め、それと同様の獅子像が貝塚を発見したことで知られるエドワード・モースによって米国に渡り、ボストン美術館に収蔵されている新事実を明らかにしながら初公開展示をするなど、話題性ととも、其残人気の火付け役となり、長野県立博物館などでも取り上げられる予定です。

メディアも注目し、長野日報は同一企画展で5回も取り上げる熱の入れようで、1回は専門家の長文の投稿原稿が掲載されました。さらにNHKおはよう日本や長野放送、信濃毎日新聞、読売新聞、市民新聞等に取り上げられました。

その余熱は、6月下旬から始まった諏訪市のアクリル画家酒井慶二郎にも引き継がれ、複数回の掲載や取材アポが入っています。

令和6年度八ヶ岳美術館企画展（素案）

- 1、 建築展 八ヶ岳美術館・村野藤吾の世界
 - ・ 令和6年は村野藤吾没後40年。
 - ・ 村野研究の第一人者長谷川堯先生が先年逝去。
 - ・ 親交の深い京都工芸繊維大学の松隈洋教授退官。
 - ・ アラブ首長国連邦での作品展・パリコレ撮影・文化庁委託調査。
- 2、 片田好美作品展 final
 - ・ 蓼科山の麓在住の野鳥画家。
 - ・ 最後の集大成となる画文集「森と生きるⅢ」刊行。
- 3、 全国公募第10回あなたが選ぶ信州の裂織展 final
- 4、 八ヶ岳山麓に広がる JOMON 世界
 - ・ 県宝18点の一堂展示希望
 - ・ 考古学・人口動態学・脳科学・言語学・歴史学・美学など諸分野から縄文人の世界観に迫る講演会とイベントで構成

令和5年度 第1回 歴史民俗資料館運営協議会 資料

協議・報告事項

(4) 今後の運営及び方針について

【経緯】

現在、美術館の運営は令和7年度まで原村振興公社で指定管理をしております。今後、美術館の運営をどのようにするか（直営・指定管理等）を検討する必要があることは昨年度の会議にて説明させていただいております。

【視察について】

- ・昨年度の会議の際に他市町村の美術館・博物館の視察についてご提案をいただきましたので、現在、視察案について検討を行っております。（別紙視察案参照）視察先には内諾はいただいております。

【今後の予定】

- ・9月下旬～10月上旬頃に視察を行い、今年度の美術館運営経費等を再度精査し、企画展の回数、直営のシミュレーションを作成。令和6年度までに方向性を確定することになります。

《参考》

〈公益目的支出計画とは〉

税制上の優遇などによって保有した財産（公益目的財産額相当）を公益目的支出によって使いきるための計画。

* 公社の公益目的支出は美術館事業のみとなるため、美術館の赤字で支出している。

当初の公益財産目的額：35,084,396円

各年度の後継事業支出計画に使用された額

R5年度の公益目的財産額：約17,178,630円

公益目的財産額を無くさない、一般法人に移行できない。

年間300万円の赤字を出したとすると、6～7年は掛かることになる。

P15 支出する方法としては、財産額を村に寄付等があるが、出来るか確認が必要。

年度	金額
H25	-1,875,964円
H26	-681,538円
H27	-1,188,886円
H28	-498,758円
H29	-1,337,026円
H30	-1,816,505円
R1	-3,357,871円
R2	-2,035,297円
R3	-2,904,921円
R4	-2,209,000円

(5) 地域おこし協力隊について

令和5年4月1日から地域おこし協力隊員を採用する予定でしたが、採用に至らず募集期間を5月31日まで延長しました。

新たに2名の応募があり、面接を行った結果、下記の方が内定しております。

【内定者】

氏名：平林 壮太 （24歳）

学歴：東京大学文学部人文学科美学芸術学専修課程

【任期】

令和5年10月1日～令和8年9月31日（3年間）

【目的・業務内容】

目的：八ヶ岳美術館の魅力発信と入館者の増加

業務内容

- ①美術館展示の企画・運営
- ②イベントの企画・運営（住民との関わりも検討）
- ③企画展のチラシ作成、広報（情報発信）全般
- ④野外展示、山野草の管理や環境整備

費用：15,716千円（3年間）

（6）美術館長寿命化工事について

昨年度、長寿命化工事基本調査を実施し、報告書及び実施設計見積等を提出してもらいました。報告書では、屋根の劣化原因となる周辺樹木の伐採及び屋根防水、外壁の修繕、雨水処理対策が必要とのことです。（別紙報告書一部を参照）

この報告を受け、今年度実施設計を実施する予定でしたが、財政上の理由から1年先送りとなっております。

【今後の予定】

令和6年度 実施設計・アスベスト調査

令和7年度 改修工事、施工管理

令和5年度 八ヶ岳美術館運営検討に伴う視察（案）

目的

原村歴史民俗資料館（八ヶ岳美術館）は令和3年度から令和7年度まで一般財団法人原村振興公社が指定管理での運営となっている。令和8年度以降の運営について、直営・指定管理を含めた検討が必要なため、他市町村の美術館・博物館の展示・運営方法について視察を実施する。

視察内容

- ・資料館・博物館の概要及び展示について(常設展・企画展の回数・入館者数等)
- ・館の運営方法について(直営・委託・人員配置等)
- ・運営に係る経費について(収入・支出の内訳)

視察受け入れ先(予定)

- ① 朝日美術館・朝日村歴史民俗資料館（直営）

住所：〒390-1104 東筑摩郡朝日村古見 1308 連絡先：0266-99-2359

- ② 安曇野市豊科近代美術館（指定管理）

住所：〒399-8205 安曇野市豊科 5609-3 連絡先：0263-73-5638

視察日程

時期：令和5年9月下旬～10月上旬頃 1日かけて2館を訪問

視察人員

- ・原村歴史民俗資料館運営協議会 委員 6名
- ・原村教育委員会 生涯学習課 2～3名程度
- ・八ヶ岳美術館職員 2名程度 計10名程度

視察先への要望

特に館の運営方法や経費について、出していただける範囲にて情報提供及び説明をお願いします。